

～ おわりに ～

未曾有の大災害から 2 年。「記憶の風化」と言われますが、被災した方々にとって当時の体験は忘れられない記憶となっています。目の前で起こる想像を遥かに超えた惨状に人々は立ちすくみ、震災直後の孤立や長い避難生活、様々な人間関係などが心の痛みとして残り、まだ現実味がないという声も聞こえます。強い記憶は時間が経つ程に、ふとした瞬間何度も思い出されるものなのかもしれません。

この語り継ぎ事業を通して各地域で起きていた現象、人々がとった行動や様々な感情について知りました。伺ったお話は壮絶な体験の一部分で、言い表せない部分も多くあったことと思います。苦しみを心に秘めて明るい姿を見せている方、家族は無事だからまだ幸せだという方、それぞれの思いを伏せて気遣う多くの方に出会いました。

物語から体験した大津波の恐ろしさ、避難意識と備え、地域力の大切さが伝わり、読んだ方が今後の自主防災や減災について一緒に考え、新しい知恵や行動を生むきっかけとなることを願っております。

あの時間、私達は何を思い、
どんな行動をしたのでしょうか。
次に災害が起こるかもしれない
何処かのあなたのために、
皆さんの物語が小さな「気づき」に
つながれば幸いです。



平成 23 年 5 月、
海水を被った分館花壇に
咲いたチューリップ

平成 24 年度宮古市中央公民館事業
3.11 大津波体験エピソード語り継ぎ事業

【第 2 期】

～あなたにつなぐメッセージ～

平成 25 年 3 月 発行

編集・発行：宮古市中央公民館

宮古市築地 1 丁目 3-9

電話 62-5807 FAX 62-6838